

町民WS（第1～3回目）及び職員WSにおける分野別での意見等

※黒文字：第1回目の意見、赤文字：第2回目の意見、青文字：第3回目の意見、緑文字：職員の意見

1. 産業分野 「第1章 元気あふれる産業のまち」

章	節	項目	意見等
第1章 元気あふれる産業のまち	第1節 農林業の振興	1 農業 [経営]	<p>【農業の継続等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の食料基地である十勝だが、農家人口減少、後継者不足問題等があり、農業を継続できるのかが課題。 農業の後継者不足が課題。 農家戸数が減る中、大規模農業だけではリスクがあるため、<u>小規模農業経営</u>の検討もしてはどうか。 1戸当たりの経営が拡大し、労働力不足になっているのではないか。 基幹産業である農業を存続させるべき。 外国人労働力を確保していく。 <u>新規農業者の開拓</u>をし、後継者だけに依存しない。 農業における雇用を増やすため、<u>農業のイメージアップ</u>をはかるほか、法人化を進めてはどうか。 移住政策の充実、人を呼び込むことも、農業を継続させる一つの方法ではないか。
		2 農業 [生産基盤や生産環境]	<p>【音更町農業への認識】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業のことをよく知らない。話だけ聞かえてくるが、現場を見る機会がない。町民が誇らしく語れるようになるとよい。 工場見学に対応できる施設があり、小・中・高・短大の全てが授業などで携わるようにできれば、子どもたちも含めて町民が特産品をPRできるようになるし、町外からの見学の受入れにも応じられれば、観光にもつながるのでは。 <p>【スマート農業へ対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農村地域には、いまだに光回線が来ていない。 働き手不足の中で、<u>IOTやAIを使った農業について検討</u>してほしい。 人手を使わず、ロボットが農業するというようなことは、そう遠い未来の話ではない。音更がその先進地になればよい。 農業機械の自動運転化を進めれば、女性でも操作しやすくなるのではないか。 企業誘致によって<u>農業機械のAI化、IOTの導入に向けた研究開発</u>を進めてはどうか。 <u>AI化、スマート農業化を進める</u>べき。 <u>光ファイバー網の整備により</u>、農業をしやすい環境をつくっていく。 農村部でのインターネット普及、インターネット回線を利用することで効率的に農業を営むことができ、人手不足への対応ができる。 <p>【低化学肥料・低農薬の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>化学肥料・合成農薬を減らす農業を推進</u>する。取り組みについてSNS等を利用して拡散すれば、音更産の農作物にクリーンなイメージの付加価値が生まれ、マーケティング効果が高まる。 <p>【生産基盤の維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減、労働資源が減少していく中での農業生産基盤の維持、生産体制を整えていく。
		3 林業	<ul style="list-style-type: none"> <u>樹木の計画的な伐採</u>により、資源を後世に残していく。

第2節 商工業、観光の 振興	1 商業	<p>【音更町の価値への気づき】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音更町は、経済的にも、買い物する場所や地理的な場所としても恵まれているが、それ故に危機感を感じられず、現状維持でよいのではないかという雰囲気がある。 <p>【商業振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元の商業振興をはかるべき。 商店街の活性化をはかるべき。 <p>【起業支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 起業家、新規事業者等へスペースの貸出をしてはどうか。 起業支援をしていくべき。 <p>【買物場所の不足感】</p> <ul style="list-style-type: none"> 木野地区以外の地区では買い物が困難。本町・駒場地区にスーパー等の店舗が少ない。 町の南側に経済が集中してしまっていることが課題。 <p>【大型ショッピングモールの誘致】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大型ショッピングモールの誘致をしてはどうか。ただし、地元商店とも共存していける対策をとる。 <p>【飲食店不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飲食店が少ない。 昼間は子どもが利用でき、夜は大人も利用できるカフェダイニングをつくってはどうか。
	2 工業、企業誘致	<p>【企業誘致と働く場所の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> IC工業団地への企業誘致を進めてほしい。税制優遇で企業を誘致して、活気をつけてほしい。 活気とにぎわいがほしい。閉校などで地域の建物がなくなるのは寂しい。そのためには、人口の維持・増加、あるいは、周りから集客できるようなまちづくりが必要。人口を維持したり人を集めたりするためには雇用が重要。地元の風土や環境を生かした一次産業をどのように伸ばしていくか考えるとともに、大型の工場や施設を伴う企業誘致を行うなど、雇用の場を確保していかなければまちは発展しない。 人の定住を求めるためには、働く場所の確保が必要。企業誘致等は必要ではないか。安定した企業が林立すれば、安定して働く人を増やせる。 IC工業団地を拡大してはどうか。 工場の誘致を更にはかるべき。 税制優遇による企業誘致を進めていくべき。 社屋建設のための土地の提供をしてはどうか。 <p>【農産物加工の企業誘致】</p> <ul style="list-style-type: none"> ニンジン、ブロッコリーの規格外のものをカットしてフリーズドライにして、シチューのギフトセットを郵便局で売っていただく。フリーズドライをつくっているアマノフーズを企業誘致すれば雇用も生まれ、IC団地も埋まるのではないか。
	3 観光	<p>【十勝川温泉の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 十勝川温泉があるが、料金が非常に高い。地元の人が利用できない。 町民に十勝川温泉利用助成があればよい。 町民向けの温泉無料券、半額券等の助成があればよい。 昔は、十勝川温泉で会議をしていた。そういう使い方ができるのではないか。 インバウンドも重要だが、日韓問題等、国際情勢などの影響によって外国人観光客は減少してしまう。 町民一人ひとりが広告塔になり、まちの魅力を発信してもらえよう、音更にはこんないいものがあると言えるような体験をできればよい。 エコロジーパークは、子どもたちに人気のある施設。十勝川温泉が近

		<p>いので、つながりができればよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音更にあるのに十勝川温泉という名前はいかがなものか。音更という名前をつけられないのか。 ・十勝川温泉を観光資源として活用する方法を検討してはどうか。 ・自家用車を持っていない方にも十勝川温泉を利用してもらうため、音更市街から十勝川温泉まで送迎バスを運行してはどうか。 ・ガーデンスパの施設には訪れたことがあっても、入浴したことはないという人も多いので、温泉としての利用を促すような工夫が必要ではないか。 <p>【十勝川温泉への更なる集客】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十勝川温泉の更なるPRが必要である。 ・十勝川温泉だけでもっと楽しめるような場にしていくべき。 ・十勝川温泉（ガーデンスパ）にもっと集客の必要がある。 ・町民に愛され利用される十勝川温泉としていきたい。 ・町民が利用しやすいように十勝川温泉の無料券を配布してはどうか。 <p>【観光振興の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興関連の職員を増やして観光強化をはかる。 <p>【まちの魅力の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流人口の拡大をはかるべき。 ・音更ブランド、魅力をもっと発信すべき。 ・ホテル、道の駅などでしか食べられないものをつくってはどうか。 ・観光地の更なる活性化が必要である。
<p>第3節 連携による 産業の振興</p>	<p>1 産業連携</p>	<p>【地元食材のPR】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音更町は、恵まれた地元の食材を食べられる。子どもたちは自校でつくった給食を食べている。これは音更町の誇り。もっと宣伝すべき。 ・地元食材を食堂、ホテル、道の駅等でも、もっと宣伝してほしい。 ・音更町産の美味しいものは豊富で、産業面においては農業も温泉も特化しているが、PRがしっかりできていない。 ・地元の特産品を使用したレストラン（カフェなど）を創設してはどうか。 ・地元食材のPR、道内だけではなく道外にも広くPRしたほうがよい。 ・SNSにより減農薬野菜をアピールし、地元の農産物を使った飲食店を増やす。 ・地元の農産物の地産地消レストランをつくってはどうか。 ・新しい道の駅等を活用した地場製品のPRを進めるべき。雇用促進にもつながる。 <p>【農畜産物のブランド力不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物はあるが、音更ブランドになっていない。 ・小麦の生産はとて多いのに、音更産と言われてもピンとこない。 ・豆の生産も多いが、本別のほうが売り方は上手。 ・音更の小豆でも、十勝の小豆と言われてしまう。 ・音更大袖振大豆という立派な大豆があるが、それを使った商品がない。 ・音更産ブランドを確立していく。 ・農畜産物のブランド力不足、PRも不足している。 ・農業の価値を生かしてきていない。 <p>【地産地消の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消を推進していくべき。 ・食育、地産地消の推進により、児童への農業PRをもっと行っていく。 ・地産地消により地域経済を回す。 <p>【6次産業化・新たな特産品の開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音更町は小麦の生産が日本で、その他にも農産物が多くあり、農業が基幹産業だが、農畜産物の加工をしているのはよつ葉ぐらいしかない。もっと加工して販売できるような工場をつくるべき。そうするこ

		<p>とで働く場所の確保をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元農作物による<u>食品加工工場を誘致</u>してはどうか。 ・<u>企業とタイアップした地場産品による商品開発</u>を進めていくべき。 ・地場産品の生産、流通ルートについて地元をはじめとして町内外に周知させる。 ・<u>豆乳製品を温泉で販売</u>してはどうか。 ・よつ葉、柳月、山忠と連携してヒット商品を開発していく。それにより雇用創出があるとよい。 ・ヒットする特産品の開発をしていくべき。 ・加工業をもっと発展させていく。 ・“音更といえば”といった特産品がない。 <p>【地域商社の設立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域商社を立ち上げ、地域産品の新たな販路を開拓してはどうか。 <p>【ご当地メニュー「十勝音更シチュー」づくりによるブランディング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニンジン、ブロッコリー、小麦の作付が音更は日本一だが知られていない。これらの食材を生かす手段が必要だが、カレーは既にインディアンカレーが広く知られているため、<u>「十勝音更シチュー」でブランディング</u>する。 ・シチューのホワイトクリームをつくるバター、生クリーム、薄力粉のいずれも音更でつくることができる。十勝音更シチュー、よつ葉にレトルトルウを開発いただき、各スーパーで販売する。CMも流れれば、音更の知名度は上がる。 ・音更産のジャガイモ、ニンジン、ブロッコリーを使った、<u>ご当地メニューとして音更シチューのほか、ドリア、グラタンを、帯広の飲食店に提供してもらう</u>。飲食店と生産者のグループをつくる。 ・道の駅で生産者のトークライブを行ったり、<u>学校給食や十勝川温泉で必ず音更シチューを提供</u>いただいたりし、定着につなげていく。 <p>【新たな道の駅への期待】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音更帯広インターのすぐそばに新しくできる道の駅は、<u>十勝を代表するような道の駅</u>にしてもらいたい。 ・<u>新たな道の駅では、音更産の農産物を購入でき、その食材を使ってパーベキューができるようにするなど、体験型の視点を取り入れてはどうか。</u> <p>【道の駅を活用した交流の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メロディーラインを活用して、道の駅同士（ガーデンSPAと新しい道の駅）をつないでいくことで、人との交流の動きを出せればよい。 <p>【「メロディーラインマラソン」大会開催による活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅を結ぶメロディーラインの利活用はどうか。<u>メロディーライン自体を、町民でも知らない人がいる。周知が必要。</u> ・<u>メロディーラインは歩道もなく、暗い道である。整備が必要。</u> ・<u>新しい二つの道の駅を結ぶ道としてメロディーラインの活用のために「マラソン大会」を開催</u>する。距離は大体、18kmあるようなので、新しい道の駅周辺と、十勝川温泉を合わせてハーフマラソン大会ができないか。 ・このイベント開催により、音更町の特産品が売れば音更町の知名度も上がる。町と企業、JAの連携による商品開発、販売が必要。 ・イベントを通じて、<u>交流人口が増え、町民の自慢にもなる。ただし、メロディーライン周辺の町民の理解を得ることが必要</u>である。 ・大きなイベント開催や、特産品が売れると、地域が潤い、管外、道外からの客が呼び込める。2つの新しい道の駅にも客がたくさん来るのではないか。
--	--	--

		<ul style="list-style-type: none"> ・課題としては、<u>整備と特産品開発の支援に費用がかかること。</u> 【道の駅と市街地とのつながり】 ・新しく道の駅ができる。そこで買い物をして、音更町の市街地にも来てもらい、また何かを見たり食べたりしてもらえるような場がほしい。 【音更町ならではの集客】 ・よつ葉ミルクフェスタは盛況だが、一企業がやっているイベントで、町のイベントではない。 ・麦感祭が、大きなイベントに発展しているが、これも町のイベントではない。 ・音更町ならではの集客を図れるようなものがほしい。新しい道の駅ができる際には、そういったところも考えながら、<u>集客について意識したものを</u>つくってほしい。 【「音更メロディーライン横断ウルトラクイズ」にオール音更で取り組み知名度の向上】 ・<u>「音更メロディーライン横断ウルトラクイズ」を開催</u>する。新しくできる道の駅等で〇×クイズをする。例えばトラクターのトレーラーでメロディーラインを移動しながら、各場所にチェックポイントでアトラクションとクイズがあり、麦稈ロールを押して一番早く着いた人が早押しできるようなものにする。勝ち抜き、優勝したチームは、十勝川温泉宿泊セットを賞品とする。できれば、STV、NHK帯広放送局等に1時間ぐらいの番組をつくっていただければ、<u>音更、十勝川温泉の知名度が上がる。</u> ・柏葉生のクイズ研究会にクイズをつくっていただき、各アトラクションの部門チェックポイントを音更農協、木野農協、商工会青年部に担当してもらおう。<u>オール音更で取り組めるもの</u>として、観光協会、商工会、本町・都市部と、分断されているところも関係なく実施できる可能性があるのではないか。 ・音更のメインイベントが少ないため、それになり得るのではないか。 【異業種間連携】 ・<u>観光、農業、産業など異業種間の橋渡しとなる施策を実施</u>してほしい。
第4節 消費者、勤労者の保護	1 消費生活	【消費者被害ゼロの町づくりの継続】 <ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害に関して、音更は幸い大きな詐欺被害が出ていない。この状況を継続できるような環境づくりを引き続きお願いしたい。 ・<u>消費者被害がゼロの町にしてほしい。</u>オレオレ詐欺等が随分多くなっている。音更町から被害者を出さないことを町民に意識をさせる必要がある。
	2 勤労者福祉	【働きやすさ・人材の確保】 <ul style="list-style-type: none"> ・若い人や女性が<u>働きやすく、子育てしやすい環境づくり</u>をしてほしい。 ・女性が子どもを産んで育てて、また<u>職場に戻れる環境</u>があるとよい。 ・福祉関係の職は特に定着率が良くない。<u>福祉関係の資格を持つ人が、長く働ける場所づくり、環境づくりが重要。</u> ・町内の事業所に大谷短大からの雇用枠を設けてはどうか。 ・働く場の確保等により人材確保をしていくべき。 ・<u>若者が働ける場所（企業）を増やす。</u>若い担い手が少ない。 ・<u>建設業の人材確保が課題</u>となっている。 ・働き方改革の一環として、サテライトオフィスの導入を検討してはどうか。 ・非正規職員問題。 ・給料を増やし、労働条件を整備していくべき。 【高齢者の雇用】 ・高齢者が働ける店の整備等をはかってはどうか。

2. 生活環境分野 「第2章 住み良さと自然が共生するまち」

章	節	項目	意見等
第2章 住み良さと自然が共生するまち	第1節 環境との共生	1 環境保全	<p>【バイオマス発電】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリーンなエネルギーに関連して、<u>バイオマスの活用方法</u>を町として考えてほしい。 ・電気をみんなに届け、循環型のエネルギーをつくっていく。 ・<u>バイオマス発電の活用</u>を検討していく。北電への売電には制限があるものの、今後、蓄電装置の開発などが進めば、電気自動車や公共施設におけるLED照明への活用等、発電した電気も有効利用できるようになる。 <p>【環境資源の保護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策にもっと取り組んでいく。 ・<u>クリーンエネルギーを活用</u>した電気の供給を検討していく。 ・太陽光、風力、バイオマス発電の利用を検討する。 ・ゼロエネルギー住宅の促進をはかる。 ・コミュニティエネルギーを増やす。 ・電気自動車の購入補助をしてはどうか。 ・移動手段（バス、タクシー）のエコ化を検討する。 ・温泉熱による発電を利用したバスを運行してはどうか。
		2 景観	<p>【景観保護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>景観を大切にしてい</u>くことが重要。十勝川温泉までに至る道は、観光客の目にもつくので、特に配慮が必要。また、むつみ公園のイチョウ並木は美しく誇るべきものだと思うので、しっかり保全していく。
		3 ごみ・し尿収集処理	<p>【ごみを拾わなくてもいい町づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>ごみを拾わなくてもいいまちづくり</u>が必要。 ・小学生が、「大人が車から投げたんだろうね」と言いながら、たばこ、空き缶、ペットボトルなどのごみを拾ってくれている。 ・将来的には、ごみを拾わなくてもいい町になればよい。 <p>【「美しい街プロジェクト」⇒不法投棄等の防止に関する条例づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩きたばこ、ポイ捨て、不法投棄の防止に関する条例をつくる。 ・<u>ごみ拾いを自発的にできるように楽しく取り組める方法を考える</u>。 ・担い手は、地元企業、町内会、老人クラブ、子ども会、ボランティア、役場等。 ・課題は、<u>何かと費用負担があること</u>。 ・この取組によって、定住者が増えると思う。 ・町民アンケート調査結果においても、町民の希望するまちの姿として、「美しい自然環境が豊かなまち」へのニーズは高かったなので、実現につながるのではないか。 ・<u>ごみの減量対策を進めていくべき</u>。 ・ごみの不法投棄対策を進めていくべき。 ・リサイクルの推進をはかる。 ・空カン[※]を有料で受け入れられる事業者が必要である。 ・ゴミのポイ捨て対策を進めていくべき。 ・カラスによるゴミの散乱の改善が必要である。 <p>【食品ロスの軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品、衣料品の積極的活用によるロスの軽減をはかっていく。 ・食品ロス減少のための効率的な方法を検討していく。 <p>【家畜糞尿対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜糞尿問題があるため、対策が必要である。 <p>【フードリサイクル等の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おとふけ学校教育フードリサイクルプロジェクト」等といった食育を

<p>第2節 便利で安全な 生活環境</p>	<p>1 公共交通</p>	<p>強化していく。</p> <p>【公共交通の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状ではタクシーが便利。バスもあるが運行時間に合わせなければならぬ。 ・コミュニティバスもあるが、乗客が1人の場合もあり、今後も運行できるのか疑問。 ・10年後は、もしかしたら自動運転化しているのかもしれないが、その間、町として<u>公共交通機関にどのように予算をかけていくのか</u>が見えてくるとよい。 ・<u>バスを待つ時間を過ごすのに、サロンがあるとよい</u>。空き家を活用して、老若男女問わず集まれる場所があればよい。 ・町内での<u>無料タクシーを充実</u>させたい。 ・コミュニティバスは、ルートを増やすべき。100円で<u>音更町の名所を回り、観光</u>できるとよい。 ・<u>渋滞時におけるバス交通の円滑化を図るため、時間帯によってバス専用レーンを設定</u>してはどうか。 ・人を集め、交流の場を充実させていく観点から、<u>音更高校と大谷短大を円滑につなぐための交通整備やバス配置の在り方</u>を検討してはどうか。 ・コミュニティバスの便数を増やしてほしい。 ・バスに替わる交通手段のひとつとしてタクシーの活用を検討し、利用促進につなげていくため、<u>タクシー券を配付</u>してはどうか。 ・<u>コミュニティバス、乗合タクシーの対象地域の拡大</u>をはかっていく。 ・路線バス、コミュニティバス、乗合タクシーの乗り継ぎ、待合所を整備していく。 ・<u>公共交通のネットワークの確立、拡充</u>をはかっていく。 ・<u>高齢者の交通手段</u>を確保し、バス・タクシーの割引を検討していく。 ・バスの本数を増やす。 ・道の駅とガーデンスパを結ぶ公共交通機関の構築をしてはどうか。 ・農村部における公共交通機関の少なさ、コミュニティバスの本数の少なさ課題となっている。 ・観光するための公共交通手段が不足している。 ・バス・タクシーのIC化を進めてはどうか。 ・バスなどの公共交通専用レーンを整備していく。 ・障がい者にも優しい公共交通の整備を進めていく。 ・音声認識・インターネットによるオンデマンド交通の検討をはかっていく <p>【コミュニティバスの帯広市までの運行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院に行く、あるいは大きな買い物をする際は、帯広市に行く必要がある。コミュニティバスを町内巡回だけではなく、帯広市に行けるようにしてほしい。 <p>【高齢者の公共交通の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者になり車を使えなくなった時のためにも、<u>バスをうまく運行していく方法</u>を検討してほしい。 ・<u>高齢者のバスの無料化、助成等の検討</u>をしてはどうか。
	<p>2 情報通信</p>	<p>【通信環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光回線等、<u>情報インフラの整備</u>をはかる。
	<p>3 消防、防災</p>	<p>【防災対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>災害に強いまちづくり</u>が必要である。 ・<u>災害対策の徹底</u>をお願いしたい。 ・どんな災害にも対応できるようにしてほしい。 ・<u>防災無線の受信機を戸別配付</u>すれば、携帯電話を持っていない方への情報伝達手段を確保できる。

			<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>コミュニティ放送局を設置できれば、防災情報をはじめ、地域に密着した情報の共有化につながるのではないか。</u> ・ <u>災害に強いインフラ整備を進めていく。</u> ・ <u>公助、共助、自助の強化をはかっていく。</u> ・ 洪水保険への補助金を検討してはどうか。 ・ 防災ラジオの配布をしてはどうか。 ・ 発電機への補助を検討してはどうか。 ・ <u>ブラックアウト対策、蓄電池の整備をはかる。</u> ・ 災害に対しての行政の対応の徹底をはかっていく。 ・ タクシー会社と防災協定を結んでどうか。 ・ 自然災害等に関する危険性を発信し、<u>避難意識の向上をはかる。</u> 【<u>避難所の見直し、情報・バリアフリー化</u>】 ・ <u>避難所に関する情報がわかりにくい</u>ため、周知方法を工夫する必要がある。 ・ 避難所において、<u>障がい者用トイレの設置や車椅子に対応したバリアフリー化等</u>がなされていなければ、対応が必要。 ・ <u>避難所の見直し</u>が必要である。 ・ 地域住民人口比に対して、現在の避難所で適切かどうか検討していく。
	4 交通安全、防犯		<p>【<u>免許返納者への優遇措置</u>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯広市は、高齢者が免許返納をすると1年間何千円か、無料バス券が出る。音更町にはこういった制度がないので検討してほしい。 【<u>「安全街プロジェクト」⇒安心して暮らせるまちづくり</u>】 ・ 防犯カメラ、街路灯を増やし、見回り、通学路のガードレール、災害時の避難マニュアルづくり、除排雪の協力等が必要である。 ・ 担い手としては、地元企業、町内会、老人クラブ、子ども会、ボランティア、役場等になる。 ・ 見回り、防犯カメラがあると、ひとりで安心して歩ける暮らしができるようになる。 ・ <u>ひとりで歩けるようになり、防犯カメラがあることによって犯罪の減少やガードレール事故の減少の効果を期待している。</u> ・ <u>ガードレール、街灯等を増やすための費用負担が課題。</u> ・ この取組によって、定住者が増えると思う。 ・ 町民アンケート調査結果においても、町民の希望するまちの姿として、「健康で安心して暮らせるまち」へのニーズは高かったので、実現につながるのではないか。 【<u>防犯</u>】 ・ 治安の維持を引き続きはかっていく。 ・ <u>地域のつながり</u>を強く持って防犯対策を行う。 ・ <u>町内会パトロールを強化</u>する。 ・ <u>街灯を設置</u>する。 ・ <u>防犯カメラを設置</u>する。
第3節 快適な生活 基盤	1 道路		<p>【<u>道路整備</u>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>道路の維持、再整備</u>が必要である。 ・ 道路を拡張してはどうか。 ・ <u>交通渋滞対策</u>が必要である。 ・ 高速道路をもっと活用していく。 【<u>橋の増設</u>】 ・ <u>すずらん大橋のようにもう1本、宝来に橋</u>を作れば、人が入ってくるのではないか。流れも変わるだろう。 ・ 橋の本数が多いため集約化し、維持管理費を削減する。 【<u>除排雪の徹底</u>】 ・ <u>除排雪については、帯広市などと比べれば行き届いている印象ではあ</u>

		<p>るが、<u>更にしかりと行ってほしい</u>。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路の除雪に対する不満の声があるため、対策が必要である。
2 河川		<p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度の台風被害を踏まえ、<u>河川の氾濫防止策・洪水対策</u>を引き続き進めてほしい。 <u>河川の維持、再整備</u>が必要である。 河川氾濫に備えた工事が必要である。
3 公園、緑地		<p>【子どもの遊び場の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音更町には、子どもを遊びに連れていくところがなかなか見当たらない。エコロジーパークは立派で夢のある施設だが、<u>子どもたちが遊具で遊べる</u>といったようなものも必要。 子どもたちが楽しめる屋外の遊び場の確保や木育などの観点から、<u>エコロジーパークに音更の木材を使った施設</u>を整備してはどうか。 <u>子どもが遊べる公園の整備</u>をしていく。 <p>【公園づくりの在り方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊具の安全基準が厳格化され、設置自体が難しくなっている状況もあるため、例えば、<u>遊びの拠点として子どもたちが楽しめるような施設を一つに集約化し、それ以外は地域の人が集えるコミュニティスペースとして整備する</u>などして公園の用途を二極化してはどうか。 音更の町名は、アイヌ語の「オトブケ」（毛髪が生ずる）に由来するもので、音更川など川の支流がたくさん流れているところからついたと言われている。川をイメージした公園づくりはどうか。 高齢者向け、子ども世帯向けで用途を分けた公園づくりを検討してはどうか。 <p>【公園の安全対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険防止の観点から、遊具についてはプラスチック化しているようだが、<u>木製のものについても導入</u>を検討してほしい。
4 火葬場、霊園		<p>【共同墓地】</p> <ul style="list-style-type: none"> 核家族化が進んでいるので、<u>共同墓地があるとよい</u>。
5 住宅、宅地		<p>【移住促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>若年層の移住促進</u>をはじめ、定住・移住の促進をはかっていく。 <p>【宅地造成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宅地について、本町と木野の間が空いている。鈴蘭小学校の西側も空いている。こういうところに宅地を造成すれば、若い人が入ってきて、人口が増えるのではないか。 市街化調整区域の開進地区に住宅が建てられるようになった。このような施策は今後も継続してほしい。 <p>【空き家の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き家が多くある。 親の家を子どもが受け継いだが、壊すにも非常にお金がかかるので空き家になってしまう。 <u>空き家を町が買い取り、サロンのようなコミュニケーションを図る場所として整備</u>し、それが各地区にあるとよい。 <u>移住希望者に対して、教員住宅の空き家を試し住まいとして貸したり、提供したりしてはどうか</u>。 公住含め3人以上世帯の申し込みが少なく3LDKが空きがちである。 <u>廃校校舎や廃屋の利活用</u>が必要である。 <u>空き家の活用</u>をはじめ、既存宅地の利活用を促進していく。 空き地、空き家を若者向けリノベーション住宅やグループホームに改築してはどうか。 <p>【町営住宅等の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 若年層や高齢者の住環境を確保するため、町営住宅は必要である。
6 地籍調査		<p>【地籍調査の継続】</p>

		・地籍調査は、隣地との境界や所有権を明確化でき、住宅を建てる際も円滑な着工につながるため、引き続き進めてほしい。
	7 水道	【音更町の水の活用】 ・音更の水はおいしい。もっと生かせないか。産業化できないか。 ・音更の地下水は既にペットボトルで販売中である。
	8 下水道、排水処理	(特に無し)

3. 教育・文化分野 「第3章 心豊かな人を育むまち」

章	節	項目	意見等
第3章 心豊かな人を育むまち	第1節 子どもの教育	1 幼児教育	(特に無し)
		2 義務教育	【学校区の見直し】 ・木野東小学校はマンモス校で、一方、下音更小学校や緑陽台小学校は児童が少ない。学校区によって児童数がアンバランス。 <u>通学路を変えたり、校区を変えたりしてはどうか。</u> ・ <u>学校区の見直しが必要ではないか。</u> 【就学援助等の支援】 ・学費軽減や就学援助を行うことにより、子育て世帯に音更町に留まってもらえるようにしてはどうか。 【地域全体での教育】 ・地域と関わりのある教育をどうつくっていくのかが見えてこない。 ・子どもたちの育ちが十分でなければ、町全体は伸びていかない。 【まちで活躍している人物の紹介】 ・子どもたちのまちのことをよく知ってもらうため、道徳の授業などで <u>音更町で活躍する人物を取り上げてはどうか。</u>
	3 高校教育、高等教育	【教育の方向性】 ・中学生や高校生など、これから就職を考える人にとって、農業等の職業につながる教育をしていくのか、それとも、進学校で学業に集中的にさせて育てていくような教育をするのか、方向性が見えるようにするといのではない。 ・ <u>高校卒業後の選択肢</u> が欲しい（進学先等）。 【音更高校の存続】 ・高等教育機関、音更高校の存続をはかっていく。 ・音更高校への通学援助をしてはどうか。 【音更高校のPR】 ・管弦楽局があるが、音更高校の特徴が知られていない。 ・ <u>知名度、認知度を向上</u> させる。 ・音更高校を市街地に移転してはどうか。 ・町が一体となって <u>特色ある音更高校</u> にしていく。 【大学の創設】 ・幼・小・中・高・大の一貫した4年生大学の創設をしてはどうか。 ・大学を誘致してはどうか。 ・大学まで教育費の無償化をはかっていく。 【大学生、若者が住みたくなる町】 ・ <u>大学生が音更町に住んで音更から通えるようにする</u> 。例えば <u>大学の近くにカフェ</u> などをつくり、 <u>若者が住みたくなるような町</u> になればよい。 【ふるさと介護福祉士育成支援事業の見直しについて】 ・事業を活用して介護福祉士の資格を取得した短大生の授業料等に関する免除要件について、 <u>音更町に就職する場合と十勝管内の他市町村に就職する場合とで内容に差</u> を設けてはどうか。 【地元企業への就職支援】 ・ <u>高校生や短大生と企業とのマッチング、インターンシップの活用</u> をはか	

		<p>っていく。</p> <p>4 青少年健全育成</p> <p>【教育環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育環境の整備をしてほしい。 ・通学時の安全確保をしてほしい。 ・子ども教育環境の充実をはかっていく。 ・子どもの居場所づくり、ケアをもっとはかるべき。 ・地域での子育て環境の整備を推進していくべき。 ・閉校した学校に官民一体となった遊戯施設をつくる。 ・公園や子どもが一人で遊べる場所を整備し、高齢者に見守りをしていただく。 ・学童を子どもの屋内遊戯場として開放してはどうか。
第2節 生涯学習	1 生涯学習の体制づくり	<p>【人材づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音更町にとっての財産は人。既に魅力のある人はいるので、その人たちをつなげていく仕組みづくりができればよい。 ・その財産である人をどう育て、どう生きていってもらおうかというビジョンが必要。 ・人をつなげ、若い人たちが自己実現をする機会をつくらなければならない。 ・魅力ある人たちがいることで、その人たちに会いに行きたいから町を訪れたいということになれば、今後、音更は伸びていく。 ・高齢者は財産。折り紙や音楽の演奏会等を通じ、高齢者と子どもたちのふれあいの場所づくりを行い、文化の伝承につなげていくことが重要。 ・地域会館などに老人会と子どもが活用できる部屋を設けてはどうか。 ・各分野の専門家を発掘し、人材バンクを充実させるべき。 <p>【「GTO (Good Teacher Ojiichan Obaachan)」プロジェクト⇒高齢者による学生への授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の知識や技術を生かすためには、高齢者が学生に授業をする。 ・教育関係者、学校との連携が必要。 ・授業を通して、将来まちを支える人材となる若い人たちが、地域の高齢者のことをより深くわかるようになるとよい。 ・課題は、授業をしてもらえる高齢者を探すのが難しいこと。 ・教室は、色々な機関、空き家を使っていければよい。 ・高齢者と子どもたちの触れ合いが増える取組だと思ふ。
	2 社会教育	<p>【小学生の居場所づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生が活動できるスペースがない。学童に入らない子どもたちの行き場がない。切実な問題であるので対応してほしい。 <p>【郷土愛の醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの郷土愛を育むため、音更町の歴史教育が必要ではないか。 ・郷土資料室を使って高齢者がボランティアで子どもたちに歴史を伝えてはどうか。 ・人口を増やすことを念頭に置くのではなく、今いる子どもたちが「音更に住んでよかった」と思えるようなまちづくりをすれば、町外からも賛同が得られ、結果的に人を呼び込むことにもつながるのではないか。 <p>【「史跡めぐり～語り部～プロジェクト」⇒子どもたちに音更町を知る機会づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語り部による説明付きの音更町の史跡めぐりはどうか。駒踊等について教えてくれる語り部がいるツアーはどうか。 ・スタンプラリー、フィールドマップ等をつかって、子どもたちに音更町の歴史について知る機会を整える必要がある。 <p>【職業体験の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの仕事を知るために、学校全体で役場の各部署における仕事を体験できるような取組をしてはどうか。 <p>【SDGs教育】</p>

		<p>・弱者を一人も出さない音更町独自のSDGs教育をしていく。</p> <p>3 スポーツ</p> <p>【スポーツ施設の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設を充実してほしい。 ・音更町出身のオリンピックがない。ぜひ音更から10年後までにオリンピックを出したい。 ・パークゴルフやゲートボール等は隣町が発祥でやっている。やがては全国区、ワールドワイドなスポーツになるように、音更町発祥の独自のスポーツを開発してはどうか。町の知名度を上げるという意味では有用。 ・健康や福祉の増進のため、スポーツに親しみやすい環境であることは重要だが、施設の料金がネックとなって利用に結びつかない面もあるので対策が必要ではないか。 ・屋内運動施設の建設を検討してはどうか。 <p>【運動場の復旧】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害で柳町の運動場が被害にあったが、復旧し、子どもたちがスポーツをできるようにしてほしい。 <p>【「オリンピック育成プロジェクト～マイナースポーツでチャンスをつかむ～」⇒アーチェリーへの取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音更町出身のオリンピックがない。 ・オリンピック育成プロジェクトとして、メジャーなスポーツで今から頑張っても勝てないため、マイナースポーツでチャンスをつかむ。 ・子どもからお年寄りまでできるスポーツで、障がい者もできるスポーツとして、例えばアーチェリーはどうか。 ・教える側の人の確保としては、定年後のアーチェリー経験者等はどうか。 ・マイナースポーツの知名度向上のため、音更発信で「アーチェリー」を普及していくとよい。音楽のまちとして「管弦楽」で音更をPRする際、両者とも「弓と弦」を使うため、音更を連想させる共通のキーワードにもなり得る。 ・全国からスポーツ合宿に来てもらえるようになるとよい。 <p>4 芸術、文化</p> <p>【博物館の設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館が必要。既存の施設等を利用、工夫して設置できないか。 <p>【伝統行事の保持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとに神社があり、お祭りがある。伝統行事を残していく土壌はある。子どもたちの記憶に残し、音更への郷土愛を育みたい。伝統行事を残すことは、観光、インバウンドにも可能性はあると思う。 ・観光客が地元とふれあうことができる場所として、十勝川温泉がある。 ・十勝川温泉の町内のお祭りで、観光客が盆踊りを通して地元の人とふれあい、楽しんでいた。こういう場があると音更町をもっと知ってもらえる。情報発信の場にもなり、将来的に「音更っていい町だな、住んでみたいな」と、興味・関心を持ってもらえることにつながる。 <p>【伝統文化の維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化の維持ができていない。 ・村田英雄と島倉千代子が歌っている音更音頭というものがあるが、現在ではあまり知られていない。 ・お昼のサイレンは怖い。替わりに音更音頭を流してもいいのでは。 ・1万人踊りについても現在ではあまり知られていない。 ・文化の維持、継承のための人づくりができていない。 <p>【音更を音楽の町としてPR】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音が更けると書いて音更。音更を音楽の町として売り出していく。 ・音更町ゆかりの有名な作曲家である伊福部昭先生がいる。そういったつながりから、様々なアプローチができるのではないか。 ・音更高校にはオーケストラがある。短大、幼稚園などともボランティアの演奏などを通じて交流が進めばよい。
--	--	--

		<ul style="list-style-type: none"> ・課題は、他の小中高とジョイントする際、経費がかかること。 ・もう一つの課題としては、練習場所はあるが、調律されたピアノがない。ピアノはあるが調律されていない。コミュニティセンターも、音楽で使われていない。 ・音楽を通じ、子どもから高齢者まで交流が増えるとよい。音楽が盛んな教育の場として、子育てをするなら音更とし、他の地域からも子どもが来るとよい。
--	--	---

4. 保健・医療・福祉分野 「第4章 いつまでも健やかに、安心して暮らせるまち」

章	節	項目	意見等
第4章 いつまでも健やかに、安心して暮らせるまち	第1節 心身の健康	1 保健	<p>【健診（検診）等の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳がん健診を30歳からにしてほしい。 ・予防接種代を無料にしてほしい。 ・予防接種代を無料にしてはどうか。 <p>【健康寿命を延ばすきっかけづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命を延ばすための仕組みづくりが必要。 ・総合福祉センターの駐車場を使ってみんなでラジオ体操をしている。家に閉じこもっている人の外出のきっかけづくりとして行っている。 ・健康寿命を延ばすための取組が必要である。 ・若い世代から高齢者まで健康に過ごせるまちにしていく。 <p>【健康づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩こう会やパークゴルフの活動などについても「おとふけ生きいきポイント」を付与してはどうか。 ・町から万歩計の支給をしてはどうか。 ・パークゴルフ場を無料化してはどうか。 ・歩数計をつけ、歩数によって景品がもらえる等の特典をつけることで、町民の健康づくりにつなげる。
		2 医療	<p>【医療、福祉環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内に緊急対応ができるような町立の病院があったらいい。 ・町独自の医療費助成、例えば、高校生まで医療費を無償にすれば、音更で子育てしたいと思う人が増えて、人口増加につながるのではないかと。 ・かかりつけ医の普及を図ってほしい。 ・既存の病院の存続、維持をはかっていく。 <p>【医療機関の誘致】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近個人病院が増えているが、専門病院が不足している。病院を誘致してほしい。 ・子育てしやすいまちづくりのためには産婦人科が必要。 ・地域によっては医療機関が十分ではない。
		3 社会保障	<p>【介護保険事業の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護認定制度について理解を深める機会を増やしてほしい。 ・介護に困る前に不安等を受け止め、相談できる場所があると良い。 ・介護する人の募集をサポートできる仕組みがあると良い。
	第2節 社会福祉	1 地域福祉	<p>【高齢者と子どものふれあい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と子どもの交流を図るため、高齢者施設と保育施設を併設してはどうか。 <p>【「生き生き（活き活き）広場⇒交流の場づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な世代が交流できる場があったほうがよい。外で遊べると子どもたちに言っても、外で遊ぶということはスポーツをすることだと思っている。昔遊びを、上の世代が教えればよい。例えば、一週間のうち何曜日には何をやるかを決めておけば、都合のつく時間に、例えば将棋、囲碁

		<p>ができる」とよい。小さい子どもでも、興味を持つ子どもがいたら、様々な面で交流の機会が創出できる。</p> <p>【相談の場の確保と周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったときにすぐに助けを求められる場所が不明瞭で、わかりづらい状況にある。 <p>【高齢者・障がい者の見守り促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障がい者の見守りをはかっていくべき。 ・高齢者、障がい者の自立支援をはかっていくべき。
	<p>2 子ども福祉</p>	<p>【地域での子育て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親が一人で子どもを育てるのではなく、物理的にも精神的にも地域で育てる環境の整備が必要。 ・地域で子どもたちを育てるということをどう実現していくか。 ・例えば、高齢者と子どもをマッチングさせる。高齢者は地域の子どものつながりをもつことでやりがいを持てる。地域で子どもを育てる環境を整備するための一助になるのではないか。 ・高齢者と子どもが気軽に交流できる場、例えば、パークゴルフ場の近くに学童等が隣接していたら、高齢者との交流が生まれるのではないか。 ・子どもたちが休みの日等に集まれる場所、施設を充実させていくべき。 <p>【「子育ての見える化プロジェクト」の仕組みづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進み、地域、各世代間でのつながりが希薄になっているのではないか。 ・子育てを地域の人が見守ることができるような「子育ての見える化」が必要。 ・担い手は、地域の方々、子どもの保護者が働いている会社、官公庁の協力をいただく。時間に余裕がある高齢者にキーパーソンとなってもえるようお願いをする。 ・課題としては、誰がやるか。ボランティアでやるか。地域によっては、担い手のいないところがある。 ・もう一つの課題としては、場所はどうするか。新たにつくると費用がかかる。既存のものを使って交流の場をつくったり、所有者と話し合いが必要になるが空き家も活用したりする。 ・音更町では子育てに周囲が協力していることを発信する。そういうことができるような町だと知ってもらおう。子育てがしやすい環境ができれば、少しずつでも人口増につながっていく。 <p>【「教えて!!特技をいかしたボランティアプロジェクト」⇒高齢者のボランティア活動の活発化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な特技を持っている高齢者が、ボランティア先生として、保育園、幼稚園、小中高、短大に出向するとよい。 ・親や学校だけに任せるのではなく、多方面から子どもと関わる。 ・中高生や高齢者のボランティアをつなぐ役目をどこかが担うと集まるのではないか。 ・子育てしている親向けに、お店でベビーシッターボランティア、読み聞かせボランティアをしてもらえるとおもしろい。 ・子育て支援の拡大をはかるべき。 <p>【保育環境の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童の対応をはかるべき。 ・保育士が不足している。保育人材の確保が必要である。 ・保育士の処遇改善をはかっていく。 ・病児病後児保育の充実等、保育環境の向上をはかっていく。 <p>【医療費助成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費を高校生まで無償にしてほしい。少なくとも小学生までは無償化できないか。

		<ul style="list-style-type: none"> ・医療費を高校生まで無償にしてはどうか。 <p>【子どもの貧困問題の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済格差等による子どもの貧困問題を解決していく必要がある。
	3 ひとり親家庭等の福祉	(特に無し)
	4 高齢者福祉	<p>【医療・福祉・介護の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が増加している。医療体制の整備や介護・障がい者施設等の更なる建設など、医療、福祉の充実したまちづくりが必要。 ・老人施設の建設が必要ではないか。 ・共生型施設事業の整備をはかっていく。 ・高齢者の外出支援をはかっていく。 ・若い人を巻き込んだ介護対策を進めるべき。 <p>【高齢者の健康維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パークゴルフ、スポーツエリア、温泉施設の充実をはかっていく。 ・福祉サービスの充実をはかるべき。 ・認知症施策の推進をはかっていく。 <p>【高齢者の活躍の場づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が安心して暮らせるような町になったらいい。 ・高齢者を生かしたまちづくりということで、雇用の場等が必要。 ・高齢者が暮らしやすい環境整備をしていくべき。 <p>【「高齢者の頑張る宣言」プロジェクト⇒高齢者雇用の場づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の社会参加として、高齢者が働ける場所を増やしたらいい。 ・高齢者を起用する企業に対しては助成をする。 ・高齢者が働く、外に出る人が増える。閉じこもっていた高齢者も、仕事があれば、外に出ようと思うはず。ただ、それで高齢者の事故が増えることも懸念される。仕事があるなら免許を返せないという方も増える。 ・音更町に仕事があれば、働きたい高齢者が音更町以外からも来るかもしれない。ただし、高齢者人口は増えることが見込まれる。 <p>【介護タクシーの割引、無料化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護タクシーの割引、無料化をしてほしい。帯広市は無料でバスも無料。音更町でもぜひお願いしたい。 ・高齢者の交通等をはじめとする生活の利便性の向上をはかっていく。 <p>【コミュニティづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会合などに足を運ぶことができない高齢者についても引きこもりにならないための工夫として、パソコン・スマホ教室を開催し、コミュニケーションツールを活用した交流機会を創出してはどうか。 ・カラオケ機器など、コミュニティの充実や強化につながる設備については無料で活用できるように配慮してほしい。 ・公園などでサロンを開催してはどうか。外国のように、外でのんびりとおしゃべりしたり、くつろいだりできる環境も地域には必要。 <p>【「笑っていい友」づくり⇒高齢者が気軽に行けるサークル等づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の笑顔のために、気軽に行けるサークル、サロンがあつたらいいのではないか。 ・例えば足が悪くてサロン等に行けない高齢者が、近所の元気な高齢者に助けってもらって、一緒に行く。高齢者同士の互助的な役割が発生するのではないか。 ・絆が生まれ、災害時にも役立つのではないか。高齢者が外に出る機会が増えると、医療費の削減が図れるのではないか。 ・課題としては、サークル、サロンの継続にかかる費用はどこから捻出するかという点。 <p>【温泉の利用】</p>

		・ <u>十勝川温泉までいけない一人暮らしの高齢者に配湯してはどうか。</u>
	5 障がい者福祉	(特に無し)
	6 低所得者福祉	【支援者へのケア】 ・要支援者への配慮をはかっている。 ・貧困世帯、要保護世帯のエンパワーメントを上げたい。
	7 アイヌの人たちの福祉	(特に無し)

5. 協働等分野 「第5章 町民の力で動く、協働のまち」

章	節	項目	意見等
第5章 町民の力で動く、 協働のまち	第1節 交流や連携、 町民参加の 推進	1 国際・地域間 交流	(特に無し)
		2 コミュニテ ィ	<p>【コミュニティ意識の希薄さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>コミュニティ意識が希薄</u>。専門家の意見を聞きながら、<u>まちづくりに生かす方針</u>があってもよいのではないか。 ・コミュニティ、町内会でのつながりが薄くなっている。 ・地域コミュニティの再構築をはかっているべき。 ・防災体制の充実を求められているにも関わらず、町内会活動などのコミュニティ活動への意識が低いことが課題となっている。 <p>【町内会でのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会同士のきずなづくりが重要。 ・民生委員でも近隣世帯の状況は把握しきれない。昔から言われている「向こう三軒両隣のつながり」を音更町の合い言葉にしてはどうか。 ・町内会、老人会に町の担当者をつけるなど、<u>行政でサポートする体制があれば、より活発な取組につながるのではないか。</u> ・<u>町内会の加入促進、活動強化</u>をしていくべき。 <p>【町民が集える場所づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安全に遊べる場所があるか。 ・町民が集える場所がない。 ・<u>音更町には1,200件程度の空き家があるようだが、これらを活用して、高齢者の居場所づくり、コミュニティ促進の場所</u>にできないか。 ・高齢者や子ども・児童が集まる仕掛けをつくる。 ・高齢者と子どもたちが利用できる施設が必要である。 <p>【閉校校舎の有効活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>閉校した校舎を有効活用</u>してほしい。例えば、地域コミュニティの場所として使わせてもらいたい。また、起業の場として提供してもよい。 ・<u>廃校舎や廃屋を活用して多様な世代の方々が集えるようなコミュニティスペースづくりが必要。</u> <p>【複合型施設への期待】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客施設はあるが、点在しており、用途も明確にPRされていない。 ・予算の関係もあると思うので、<u>新しく施設を建てるだけではなく、既存にあるものも両方生かしたまちづくり</u>はできないか。 ・<u>複合型施設</u>があれば、大体の用事が済むようなものがあるとよい。これにより<u>公共交通の動線</u>もつくりやすくなるため、よりコストを抑えた交通アクセスにつながるのではないか。 <p>【農村部と都市部の融合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農村部と都市部が分断されている。 ・相互理解とつながりを持つことが重要。 ・<u>農村部と都市部を融合</u>していく。 <p>【地域のイベントづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域が一体となるイベントの開催が必要</u>。小さくても毎月何かイベン

			トを開催し、町の一体感につなげていく。 <ul style="list-style-type: none"> 発信力を高めるため、<u>小さな祭りなどのイベントを一つに集約し、大きな規模で開催するのも一案ではないか。</u> 音更町ならではの<u>大きなイベント</u>を企画してはどうか。
		3 町民参加	【町民、企業、行政が一体となった話し合いの場づくり】 <ul style="list-style-type: none"> このワークショップもそうだが、<u>町民、地元企業、行政が一体となって話をしていくことが重要。</u> ワークショップに小中高生もいれば、もっと素敵なアイデアが出たのではないか。 【高齢者の活躍】 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者に民生委員や町内会での活動を通して活躍していただくのはどうか。
		4 男女共同参画	(特に無し)
第2節 行財政運営の推進	1 広報、広聴、情報公開		【広報】 <ul style="list-style-type: none"> 町民の目線に立ち、音更町の広報をc h a iのような構成にするなどして、お得な情報を届けるような工夫があってもいいのではないか。 【ホームページ】 <ul style="list-style-type: none"> 他の市町村のホームページと比較すると、知りたい情報を閲覧しにくい。問合せが多い内容についてはまとめて掲載するとともに目に付くようなレイアウトの工夫が必要。 町外の方でもアクセスしやすくすれば、まちのPRにもつながる。 <u>音更町ホームページは見づらい。</u> <u>音更町ホームページが中心となって、音更町のことを発信している人の情報が集まる場所</u>になるとよい。 ホームページの対策ができていない。 【町のPR不足】 <ul style="list-style-type: none"> 音更町は住みやすく、いい資源も多いが、宣伝がうまくできていない。 行事・イベントもあるが、中途半端でポイントがうまく見えてこない。 <u>音更町のPRが若干薄い。</u> 音更町のまちづくりとしてこういうものを頑張っていることについて、もっと前を出してアピールできればよい。 【YouTube、SNSでの情報発信】 <ul style="list-style-type: none"> <u>YouTuberになりたい子どもたちに音更町を紹介する動画をつくってもらい、発信していくこともできるのではないか。</u> <u>町民をはじめ、町職員、町長にもYouTuberになってもらえたらよい。</u> 学生が普段使っているT i k T o k等で、<u>気軽に町の情報をアップしていく。</u> <u>音更の魅力を発信するプラットフォーム</u>を構築していくべき。SNSでの対応も検討すべき。 世代を問わない情報発信手段の充実をはかっていく。 【町の知名度の向上】 <ul style="list-style-type: none"> 道外では、音更町はほとんど知られていない。 音更町をまずは知ってもらい、<u>音更に行ったら何が食べられ、何が買えるかなどについて知ってもらう必要がある。</u>今後の大きなテーマ。 【町民の意識向上】 <ul style="list-style-type: none"> まちが有する豊かな資源の価値に気づきがないという面において、音更の町民は危機感が薄く、結果としてPRができていない。 音更のブランド力向上のためには、<u>音更町民一人ひとりが広報パーソンであるという意識を持つことが重要。</u>そのためには、子どもの頃から地元愛を育てていくような教育が求められる。

		<p>【若年層の移住促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世帯が移り住める町にしていくべき。道外等にも住みやすさをPRすべき。 <p>【独自の文化の情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音更町について、格好よく発信するだけではなくて、例えば納豆に砂糖を入れている風習などを自虐的に取り上げることで親近感を持ってもらうなどし、独自の食文化等について発信してはどうか。
	2 行政運営	<p>【各地区の特性を生かしたまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの地区が分かれていることで、行政の非効率等の課題があるようだが、これを特性として生かしたまちづくりはできないか。 <p>【職員数の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人手不足のため、役場職員を増やしていく。
	3 財政運営	<p>【インフラ整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフラ施設の大胆な整備・統合、廃止、払い下げ、解体、用途転用等が必要。 ・インフラ施設の長寿命化をはかっていくべき。 ・農村部のインフラを向上させていくべき。 <p>【コンパクトシティ化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフラを小さくまとめて整備し、コンパクトシティ化をはかっていく。 ・生活圏を縮小するコンパクトシティ化を検討してはどうか。
	4 広域行政	<p>【情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他市町村とのデータ、情報共有をよりはかっていく必要がある。